【学生によるESD学習支援活動】

奈良市立佐保川小学校　野外活動支援　報告書

幼年教育専修　学部１回生　井原奈佑

１．実施日　令和元年10月17日（木）

２．場所　奈良市青少年野外活動センター

３．参加者　谷垣徹（大学院生）井原奈佑（学部生）新田結子（奈良ユネスコ協会青年部）
奈良市立佐保川小学校児童、引率教員　約75人

４．活動支援内容

令和元年10月17日（木）、奈良市青少年野外活動センターにおいて、奈良市立佐保川小学校第５学年の野外活動が行われ、本学生２名、奈良ユネスコ協会青年部から１名がその支援に当たった。１泊２日のうち主に１日目に関わり、キャンプファイアーの支援を行った。支援の具体的な内容としては、キャンプファイアー時のファイアーキーパーである。児童らが安全にキャンプファイアーを楽しめるように、火の管理、スタンツの盛り上げを行った。

今回の野外活動支援を以下の２点で振り返る。第１に児童との距離について、第２に今回のキャンプファイアーに先生方の思いがしっかりとこもっていたという点についてだ。

第１の生徒との距離については、他の野外活動支援では、朝からまたは野外炊飯が始まるお昼から参加することが多く、そこで子どもたちとある程度打ち解けた状態でキャンプファイヤーに臨むことが多かった。しかし今回は、キャンプファイアーの準備からの参加だったので、子どもたちと面識がないまま始まった。その状態で盛り上げるための声掛けをするのはとても難しく、学生が入ることでしっかりと形が出来ている和を乱してしまうのではないかと思い、積極的に関わることが出来なかった。そのような状況でも、子どもたちの声掛けに反応してあげられるように臨機応変な対応をしていきたいと思った。

第２に、キャンプファイアーに先生方の思いがしっかりとこもっているという点だ。今までの野外活動支援では、キャンプファイアーの時に、ユネスコクラブに全てを任せてくださるところが多かった。それは、私たちにとって大きな経験になる。しかし、今回は先生とキャンプファイアー係を中心に学年全員で作り上げていた。事前に学校でしっかりと流れや、スタンツの練習をしてのぞんでいた。先生が係の子どもに「恥ずかしさを捨てないといけないよ」と言って、率先して盛り上げに回っていたことで、子どもたちもどこか吹っ切れた様子であった。そして先生方が、キャンプファイアーを通して伝えたかったことが、しっかりと子どもたちに伝わっていて、それによって全員の気持ちが一つの方向に向いていた。このことから、子どもたちが積極的に参加できるにかについては、先生などの周りの人の影響が大きいことが分かった。そして同時に、学年全員でつくるキャンプファイアーは、見ているだけで楽しく、勉強になった。

キャンプファイアーの様子

以上２点が、今回の野外活動支援を通じて特に感じたことである。今年、ユネスコクラブでは最後となる野外活動支援で、先生と生徒が一体となってつくりあげるキャンプファイアーを見られたことは、これからの自分自身にとっても、ユネスコクラブにとってもいい経験になったと思う。